

施策マネジメントシート（令和 4 年度目標達成度評価）

第2次 総合計画 体系	政策 No.	8	政策名	幅広い交流を深め にぎわいのあるまち
	施策 No.	2	施策名	協働によるまちづくりの推進
施策主管課	企画政策課		施策関係課名	総務課・総合戦略課・生涯学習課・都市計画課

1 施策の目的（①対象③意図）と指標（②対象指標④成果指標）等の推移

①対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		③意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)						
市民		まちづくり活動に参加する						
④成果指標 (意図の達成度を表す指標)		単位	数値区分	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	成果指標の達成状況及び要因 1) 達成。新型コロナウイルス感染症の影響により自粛していた活動を元の状況に戻すことは容易ではないと考え、再設定した目標値である28.0%を達成した形になった。これは、コロナが終息に向かいつつあり、少しずつ自粛していた事業が実施に向けて動き出す傾向で意識が向上したものと考え。年代別に見ると40歳代以下が低い割合となっている。逆に50歳代以上で目標である28.0%を大きく上回っている。
1	まちづくり活動に参加している市民の割合	%	目標値 実績値 達成率	28.0 24.8 106.4%	30.0 29.0 96.7%	33.0 28.0 84.8%	36.5 28.0 76.7%	
2			目標値 実績値 達成率					
3			目標値 実績値 達成率					
4			目標値 実績値 達成率					
5			目標値 実績値 達成率					

2 施策（基本事業）の振り返り

基本事業	(施策の目標達成に向けて、どのように取り組んだか。)
まちづくり活動への市民参画の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・協働推進事業として、市民活動ガイドブックの発行、市民協働の啓発(市民活動促進イベント・協働のまちづくり講座) などを実施した。 ・新しいサービスや製品開発において、ユーザーや市民が参加し、企画から改善に至るまで共創による手法の第2期リビングラボを開始し、自転車を活用した観光事業について話し合いを行った。 ・生活支援や地域猫など市民や団体と協働で実施する事業が増えてきている。
市民活動団体の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動センターの運営や協働を推進するための費用に対し、補助金の交付を行った。 ・「協働のまちづくり推進事業補助金交付要綱」の廃止に向けては議論を重ね、市民活動センターで民間補助金等の案内を充実させた。 ・シティープロモーションとして、市民活動団体のPRによる支援を行った。
市民主体のまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・過疎地域に指定された芦刈地区でのまちづくり協議会設立に向けた取り組みとして、勉強会を2回実施した。また、集落支援員を令和4年9月から配置し、住民の方への聞き取りやワークショップへの参加を促した。 ・OgiOgiアプリを活用して自治会情報を発信する自治会も見受けられ、自主的な地域活動への参加が促進できた。

3 施策の課題（基本計画で掲げた施策の「現況と課題」、成果指標の達成状況を踏まえて、次年度以降に向けた施策の課題）

<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体のまちづくりを推進する組織の立上げを支援し、平成30年6月「三里まちづくり協議会」が設立された。しかし、令和2年度・令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で行動が制限されたこともあり、協働によるまちづくりについて理解を深めてもらうための啓発活動を行うことができていない。 ・「三里まちづくり協議会」の設立以降、他地区での取り組みを促すことができていない。芦刈地区が過疎地域指定を受けたことで令和4年12月からまちづくり勉強会をスタートさせたが、他地区での取り組みを促すことができていない。 ・市民活動ガイドブック登録団体を対象とした「市民活動センター等に関するアンケート(H30.3)」に、「ゆめぷらっと小城が開館しているときは、使えるようにしてほしい」との声もある。

4 今後の取り組み（課題解決に向けた今後の取り組みの方向性・内容等）

<p>協働によるまちづくりを推進するため、まちづくり協議会への運営費補助金のあり方の見直しや、人的支援として集落支援員の配置、地域運営組織への人材育成や支援の検討を行う必要がある。</p> <p>また、市民の自発的な活動が必要不可欠であり、市民が関わりを継続できるような取り組みの検討が求められる。</p>
